

第2回 放射線遮へい設計指針検討会 議事録

1. 開催日時：平成18年7月24日(月) 13:30～17:00
2. 開催場所：日本電気協会 4階 B会議室
3. 参加者 (順不同, 敬称略)
 - 委員：原口・牧平(東京電力), 藤田(日本原電), 白尾(中部電力), 長尾(四国電力), 宍道(中国電力), 井上(九州電力), 星野(電源開発), 中島(富士電機システムズ), 久保田(三菱重工), 藤田(日立製作所) (計11名)
 - 委員代理者：中瀬(関西電力・中村), 西村(北陸電力・今井) (計2名)
 - 欠席者：佐々木(北海道電力), 伊藤(東北電力), 桜木(東京電力), 上松(東芝) (計4名)
 - 事務局：長谷川(日本電気協会) (計1名)
4. 配付資料
 - 資料 No.2-1 放射線遮へい設計指針検討会 委員名簿
 - 資料 No.2-2 第1回 放射線遮蔽設計指針検討会 議事録(案)
 - 資料 No.2-3 JEAG4615-2003 改定(JEAC化)に当たっての考慮すべき事項一覧
 - 参考資料1 JEAG4615 原子力発電所放射線遮蔽設計指針制定案 について
5. 議事
 - (1) 会議定足数の確認について

事務局より委員総数17名に対して本日の出席委員数は, 代理委員も含めて13名で検討会決議に必要な委員総数の2/3以上の出席が確認された。
 - (2) 代理参加者の承認について

本日, 代理出席の中瀬氏(関西電力・中村委員), 西村氏(北陸電力・今井委員)の会議参加に検討会主査から承認された。オブザーバ参加者はなかった。
 - (3) 前回議事録(案)の承認

事務局より, 資料2-2に基づき, 前回の検討会議事録(案)が紹介され, 誤字修正をした上で本内容について承認された。
 - (4) JEAG4615-2003 改定に伴う考慮すべき事項の検討

事務局より, 参考資料1に基づき, JEAG4615 制定時の公衆審査意見を紹介した上で, 各委員より, 資料 No.2-3に基づき, JEAG4615-2003 改定(JEAC化)に当たっての考慮すべき事項が紹介され, 改定への採否をそれぞれの事項について確認した。

議論の結果、類似提案をグルーピングするとともに、採用もしくは採否判定が難しい事項を JEAC4615-2003 の「4. 遮へい設計指針」「5. 遮へい設計計算」に反映させた形で、次回検討会までにこの素案を作成して、次回検討会で検討することとした。

作業分担は、グルーピング作業並びに素案作成を藤田（康）委員と久保田委員が担当することとなった。

主な論点は、以下のとおり。

線源項である f 値（希ガス漏えい率）の高燃焼度化に伴う燃料等線源条件の変更を盛り込むべきか。 個別プラントマターになるので、盛り込みづらい。

遮へい計算コードはどのように整理するか。 現存の計算コードを否定しないよう解説でまとめる。

既設プラントへの適用、設備改造等にどう対応すべきか。 ソウスタームで変わるので、本文には明言せずに解説に入れ込む。検討会として解釈を明確にしておく。

「高線量」の定義はどうか。 「高線量」との記載は、廻りの区域等と比較するための概念であり、数値等は明言しないこととする。

「原子炉制御室の居住性に関する規程」から本指針を呼び込んでいるが、どう対応するか。 設備の設計関連は安全設計検討会になるが、基本的に本検討会で検討するのは「遮へい設計」の部分だけとする。

固体廃棄物運搬容器に関する規程を明記すべきか。 計算など詳細事項は別として明記する。

補助遮へいの評価は明記すべきか。 工事計画書への記載箇所は、「審査」の対象に関するものであり、JEACorJEAG に明記するのは適切ではない旨の意見があり、記載しない方向とする。

数値の扱い（誤差、四捨五入、有効数字など）を記載する必要はないか。 誤差の件は、JASS 5 Nにより規定されているものであり、有効数字等はケースバイケースなので、記載しない。

一時的な線源の取扱いは明確にすべき。 一時管理区域でもあり明記しない。

「遮へい体の種類」は電事法規則に従うべき。 「遮へい体の例」という記載を「遮へい体の種類」にする。

本文、解説、例示などの区分け、記載ぶりをどうするか。 素案を作成して検討する。

（５）その他

次回検討会は、9月26日（火）開催予定。JEAC4615-2003の「4. 遮へい設計指針」「5. 遮へい設計計算」の素案の検討を行なう予定。

以 上